



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 齋藤 庄司
編集者 沢田 光広
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2011.12.10
第1440号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを 皆の力で」
「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

第22回平和環境 岩手県センター総会

JR不採用問題の終結を報告

新議長に豊巻氏 (岩教組) を選出

平和環境岩手県センター(以下「平環センター」)の第22回定期総会が12月3日(土)盛岡市・岩手労働福祉会館において、関係者約60人が出席し開催された。
昨年の定期総会で、平和環境岩手県労働組合センターと護憲連盟・憲法を活かす会・県原水禁を組織統合し、労働政治運動部・原水禁運動部・平和運動部という三つの部局を立ち上げこの一年運動を取り組んできたが、組織統一後初めての総会として各部局の経過報告・総括を行い、平環センターが取り組む運動課題として「反戦・平和」「反核」「地域共闘」を基本とするという運動方針を確立した。
新議長に豊巻浩也氏(岩教組)を選出し、総会は成功裏に終了した。

この間の支援に感謝し発言

佐々木地方本部書記長

平環センター第22回定期総会には、千葉事務局次長の司会です。11大震災の犠牲者に対する黙祷から始められた。開会のあいさつを行なった板倉副議長は、震災の犠牲者について、被災者へのお悔やみとお見舞いの後、「組織統合後の初の総会となる今総会を有意義なものにして欲しい」と代議員に呼びかけた。その後、議長団に太田氏(自治労)・藤沢氏(全農林)の両代議員を選出し、代議員は出席が44人、委任状提出が7人であり、総会の成立要件が満たされているという報告がなされた。第22回定期総会の成立が宣言された。



運動方針を確認、団結ガンパロで総会を終えた

続いて、幹事会を代表してあいさつに立った齋藤副議長は「①組織統合後の活動報告・各地区における統合に向けた取り組みの継続要請②脱原発の取り組みを強化しエネルギー政策の転換を図り、原発輸出を議論する政財界にストップを。護憲の闘いも強化を③知事選を巡る対応で社民党と平環センターに不協和音が流れたが、意思統一を図り県議の現有議席は確保できた。市町村議会選挙の各地区の対応に敬意を表し、今後とも党とセンターの意思疎通を密にしていく④諸課題の前進が被災地の復興につながる。社民党と

当面の主な日程

- ▽12月17日(盛岡) 交渉委員・職協代表者会議
- ▽12月20日(盛岡) 第3回執行委員会
- ▽1月7日(盛岡) 盛岡支部旗開き
- ▽1月8日(青森) 青森支部旗開き
- ▽1月9日(盛岡) 平和環境岩手県センター・社民党連合同旗開き
- ▽1月12日(青森) 青森県平和労働会議・社民党合同旗開き

承認し、2012年度運動方針(案)とスローガンが提案された。質疑に入り、1人目の発言者として国労の佐々木代議員(地本書記長)が「①JR不採用問題は昨年6月に裁判所で和解し、雇用の問題を残すのみとなっていたが、混迷する政治と震災で雇用の確保ができず、当事者は新たな人生を歩む決意をし、組織として国鉄闘争の終結を確認した。この間のご支援に御礼を申し上げる②労働争議は長期にわたる原状回復は非常に困難。労働者の力で争議を起させない取り組みやセーフティネット作りが大切だ」とこの間の支援に感謝をこめて発言。各代議員に配布した帯広闘争団からの御礼のメッセージも紹介した。

センター4役体制

なお、選出された役員(4役)体制は次の通り。
◎議長 豊巻 浩也(岩教組)
◎副議長 齋藤 庄司(国労)
◎森 茂(全自交)
◎阿部 哲巳(全水道)
◎事務局長 野中 靖志(自治労)
◎事務局次長 千葉 伸武(高教組)
中崎 英昭(県交通)

拡大に組織的な取り組みを 東西ブロック交流会も確認

「全国組織部長会議」

本部は11月12日、東京都新橋・交通ビル3階会議室において、「全国組織部長会議」を開催した。盛岡地本・菊池要悦組織部長を含め全体で30人が出席し、組織強化・拡大に向けて意思統一を図った。本部・田中博文中央執行副委員長からの「JR不採用問題が終結し、組織拡大が大きな課題に。6月26・27日に広

菅原一郎顧問弁護士が死去 国労運動に長年にわたり尽力

ご冥福をお祈り申し上げます

地方本部の顧問弁護士を務め、出向、配属・配転、昇進・昇格差別事件などを担当し国労運動の前進に長年携わり尽力をいただいた菅原一郎弁護士が76歳で11月5日に亡くなられ火葬・葬儀は近親者のみで営まれた。
11月29日に齋藤委員長が組織を代表しご焼香に盛岡市の自宅を訪ねた。
今日までのご協力感謝申し上げるとともに、菅原先生のご冥福をお祈り申し上げます。

最大の課題、安全確保に 政策提言を今後も強化

青森県交運労働協総会

11月25日青森県労働福祉会館において「青森県交運労働協第19回定期総会」が開催された。挨拶した山内議長は「交通運輸産業の最大の課題である安全を確保するための取り組みとして、政策提言を行ってきた。この取り組みを今後も強めていきたい。18年前の統一行動を取り組んでいきた」との提起を受け、議論を開始。「10月に契約社員が国労へ加入(四国本部)」「この半年で5人が復帰し、内4人は国鉄組。会社の対応変化を背景に、国労復帰へ」(西日本本部)「積極的な会社施設利用で、組合員の集まる場作りを取り組み」(東日本本部)からの報告がされ、盛岡地本からは9月11日・12日の「第5回組織拡大対策会議」を報告。「支社の年齢構成を考えると、技術継承は大きな課題。職場の中心軸になり、職場の課題・問題を改善する中から国労の姿を他労組に見せ、信頼を得ていくことが重要。分会活動の活性化に向け、引き

2011年3月11日、14時46分に発生した「東日本大震災」は東北地方に未曾有の大災害をもたらした。この事実を私たちは後世に伝えることは、地震(国内観測史上最大M9.0、震度7)・津波・火事も多く人命を奪い、普通に暮らしていた日常をも奪った。全国の死者は15840人、行方不明者は3546人(12/2現在)となり、現在も警察などが懸命の捜索活動を続けている。さらに、福島第一原発事故が大震災の被害を大きくし、放射能漏れの被害は収束の目処が立っていない。「想定外の津波で起きた電力消失が原因」との言葉で済まされないレベル7(事故深刻度評価の最高ランク)は、家庭の電力を安定的に供給する設備としての原子力発電所が、電力の消失によってマルチダウンまで起こり、世界規模での放射能汚染を招くのは深刻な事実である。私たちは今回の大震災で大切な家族を失い、友人も失った。仲間も失った。その悲しみ辛さを少しでも癒してくれたのが、全国からの励まし、多くの物資を届けてくれた仲間の暖かい支援だった。来年度の賀状の文面は、お祝いの言葉ではなく、「つらく悲しい現実を乗り越えて、生きていこう。一歩一歩前進しよう」との励ましの文面が多くなったという。3.11の悲しみ辛さは癒えることはないが、底冷えする仮設住宅に住む被災者は、来年こそは良い年に」と祈っている。2012年は、今年1年の教訓を糧として、息の長い支援をもとより鉄路の復興・復興に向け尽力し、また組織拡大により組織の展望を切り開く1年とすることを誓いたい。(小)

地方運輸協議会定期委員会

検修合理化・技術継承などで意見

= 佐藤英雄議長ら新役員選出 =

地方運輸協議会は、11月12日に盛岡国労会館で定期委員会を25人の参加の中で開催しました。委員会は、高橋副議長(青森運輸分会)の開会挨拶で始まり、委員会議長に伊勢谷委員(青森運輸分会)を選出し議事に入りました。

最初に佐藤議長(一関運輸分会)が、今年地震・津波・原発という大きな災害の年となった。また、TTP問題についても労働組合として何をやるべきかなどとの挨拶を行いました。来賓は2人で最初に佐々木地方本部書記長が、J-R不採用問題終結後の闘い、一括和解以降の職場の取り組みと労働条件改善、安全・安定輸送確

立の闘い、公共交通を守る闘い、組織の強化・拡大の闘いなどの取り組みと情勢報告。続いて木立東日本本部運輸協議長(東京地方本部)は、大震災から8カ月がたったが、6カ月時に佐藤議長と大船渡沿線を視察した。労働組合として原発に対しての取り組みをやっていかねばならぬ。検修全面外注化問題、標準数を職場毎に調査し、必要な員数を事細かに調べていく事を提起していくことを強調しました。

その後、佐藤議長による経過報告、運動方針案提案、川原事務局長(盛岡運輸分会)による決算報告と佐々木会計監査員(一関運輸分会)の監査

報告、予算案が提案・承認されました。

質疑応答では、殿村(大湯地域分会)・中嶋(青森運輸分会)・阿部(八戸運輸分会)・佐々木(盛岡運輸分会)・館川(盛岡貨物分会)・岩淵(一関運輸分会)・奥(釜石地域分会)の各委員から、①5月31日に発生した485編成電車の脱線事故、ハイブリット車の脱線前に移動する事故は、メンテナンス合理化、マニユアル不足など技術継承に問題があるのでは②要員関係は不足するのでは③検修外注合理化での指揮命令系統で偽装請負になる事柄があるのでは④釜石線でクマ、鹿などに

衝突すると2時間くらい待たないと関係社員が来ない。昨年は151件も衝突事故があった。討論になりました。

役員改選では、全員の留任を確認し団結ガンバローで終了しました。

◇ 役員体制三役は次の通り。

議長 佐藤 英雄 (一関運輸分会)

副議長 高橋 清光 (青森運輸分会)

湯沢 等 (盛岡運輸分会)

事務局長 川原 昭 (盛岡運輸分会)

報告員 大山 厚 (一関運輸分会)



=盛岡からも4人が参加した=

会は、15時に開会し、議長には盛岡の中堤久江さんが選出され、東日本連合会・山崎会長から挨拶を受け、続いて国労家族会連合会の折瀬会長から「私自身大分闘争団の家族として24年闘い続けてきました。それは全国の国労の仲間と支援があつてこそのものでした。物心両面からのご支援本当にありがとうございます。そして家族会の活動がありました。

経過・決算・活動方針案・予算案が全員の拍手で承認され、新役員を選出、最後にスローガンを全員で確認し総会を終わりました。残念ながら各地方からの報告はありませんでした。夕食での交流や二日目の名所散策で親睦を回り、参加者はまた1年頑張れるという晴れ晴れとした笑顔であふれていました。素晴らしい紅葉の景色を眺めながら帰途につきました。参加された皆様大変お疲れ様でした。



全国から2,500人の仲間が参加した(山形ビッグウイング)

第48回護憲大会・山形

子供たちに平和な未来と生活を

大震災・原発事故で多くの声

11月4日、6日、全国から2500人が参加し第48回護憲大会が山形県の山形ビッグウイングを会場に開催され、平和環境岩手県センターの砂金良昭事務局長を代表にした

岩手県チーム41人(国労3人の1人として参加して)ました。

初日は、百姓シンガー・須貝智郎さんの百姓としての目撃した震災と未来への希望を

込めた震災救援コンサートが始まり、主催者挨拶で、実行委員長の得橋崇さんは「東日本大震災で平和フォーラムが今後何をなすべきか考えさせられた。今まで憲法理念の実現のため政権交代を目指し、市民参加の政治実現に努めてきた。与党内にいる今の世の中を変えていくチャンス」と述べ、社民党の福島瑞穂党首からは「社民党は原発を訴えてきた。また、新自由主義に反対し格差の是正を求めていく」と連帯の挨拶。来賓の吉村美恵子知事が脱原発を訴え、市川昭男山形市長は「避難者が安心できるように支援していく」と述べました。

シンポジウムは、テーマが「震災から考える人間の安全保障」でパネリストの福島

の橋本さんからは「第1原発から約70キロの所に住んでおり子供たちの将来について不安でならない」、宮城の高橋さんからは「県の尿水処理場は回復しておらず、原発事故で放射能が海に拡散、沈降している」、沖縄の玉城さんは「一部返還された土地にはいろいろな廃棄物が放置され苦勞している。基地に頼らない地域を作ることが大切」と被災地などから生の声が訴えられました。

二日目は、7分科会が行われ、私は「地域環境・脱原発にむけて」に参加しました。長谷川公一(東北大学教授)さんは、「火力発電の稼働率を今の50パーセントから70パーセントにすれば原発なしでも今の電力量は確保できる」、桃井貴子(気候ネットワーク)さんも、「25%節電で再生エネルギー125% 二酸化炭素25%削減を2020年度までに達成するのは可能だ」とデータを提示しながらの講演でした。

最終日は、特別提起で岩手・福島・次回開催地の山口の順で話し、岩手の釜石市議・菅原規夫さんが大震災、福島から原報告、予算案が提案・承認されました。

質疑応答では、殿村(大湯地域分会)・中嶋(青森運輸分会)・阿部(八戸運輸分会)・佐々木(盛岡運輸分会)・館川(盛岡貨物分会)・岩淵(一関運輸分会)・奥(釜石地域分会)の各委員から、①5月31日に発生した485編成電車の脱線事故、ハイブリット車の脱線前に移動する事故は、メンテナンス合理化、マニユアル不足など技術継承に問題があるのでは②要員関係は不足するのでは③検修外注合理化での指揮命令系統で偽装請負になる事柄があるのでは④釜石線でクマ、鹿などに

からは原発被災地の訴えを行いました。

今回参加し3・11東日本大震災と福島第一原発事故での反原発の取り組み、最低限の生活権、勤労の権利など子供たちに平和な未来と生活しやすい環境を目指して大会や集会に参加し大地震の傷跡を後継に継承していく義務があると思われました。まだ被災地に行っていない人がいましたら、現地に行つて現地の人たちに声をかけましょう。心を待っています。

◇ 盛岡駅連合分会 館洞 孝一

第23回国労家族会東日本連合会総会

総会・名所散策で親睦

地本家族会会長・佐々木香代子

11月12・13日の両日、栃木の「かんぼの宿塩原」に於いて国労家族会東日本連合会第23回総会(全体で25人、盛岡4人)が開催されました。総

会は、15時に開会し、議長には盛岡の中堤久江さんが選出され、東日本連合会・山崎会長から挨拶を受け、続いて国労家族会連合会の折瀬会長から「私自身大分闘争団の家族として24年闘い続けてきました。それは全国の国労の仲間と支援があつてこそのものでした。物心両面からのご支援本当にありがとうございます。そして家族会の活動がありました。

受けました。

東日本本部の高野委員長からは「昨年6月の最高裁での和解で残された雇用の問題は苦渋の決断ではあつたが第80回定期全国大会において終結を確認した。これからは残された事業体を支え続けて行かなければならない」との終結に至つた不採用問題の経過の報告と協力をお願いの挨拶がありました。

経過・決算・活動方針案・予算案が全員の拍手で承認され、新役員を選出、最後にスローガンを全員で確認し総会を終わりました。残念ながら各地方からの報告はありませんでした。夕食での交流や二日目の名所散策で親睦を回り、参加者はまた1年頑張れるという晴れ晴れとした笑顔であふれていました。素晴らしい紅葉の景色を眺めながら帰途につきました。参加された皆様大変お疲れ様でした。

当面の方針を確立し役員を選出

第54回青森支部定期大会

青森支部は、第54回定期支部大会を11月13日(日)に青森県労働福祉会館で開催し当面する取り組みを確立。新役員を選出を行い大会を終了した。

支部の役員体制は、次の通り。

◇ 執行委員長 阿部 一久 (八戸運輸分会)

◎執行副委員長 阿保 光春 (青森運輸分会)

笹山 賀庸 (八戸工務分会)

◎書記長 佐々木政志 (青森運輸分会)

◎書記次長 田崎 秋弘 (青森運輸分会)

◎執行委員 成田 芳隆 (青森施設分会)

高瀬 貴弘 (青森駅連合分会)

千葉 留由 (青森駅連合分会)

石田 春夫 (青森電気分会)

小泉 正直 (青森運輸分会)

◎会計監査員 長崎 識義 (青森駅連合分会)

田高 修司 (青森貨物分会)

ウィンターキャンペーンにご参加いただくと

◎東北労働金庫が復興支援のための寄付を行います。
期間中、以下の条件でお預入れ・ご契約いただくと、「キャンペーン対象取引件数×50円」を「あしなが育英会(東日本大地震・津波遺児募金)」に寄付します(2012年1月末)。お客様のご負担はありません。

◎オリジナル「ネックウォーマー&グローブセット」をプレゼント!
期間中、以下の条件でお預入れ・ご契約いただいたお客様へオリジナル「ネックウォーマー&グローブセット」をプレゼントいたします。

※キャンペーン対象お取引1回につきいずれか1セットプレゼントいたします。
※それぞれ数に限りがあり、ご希望に添えない場合がありますので、ご了承ください。
※写真はイメージです。
※キャンペーンのプレゼントは、いずれも個人のお客様が対象となります。
※また、定期預金では同額書替えや5万円の増額に満たない書替えは対象となりませんので、ご了承ください。
※店頭にて説明書をご用意しています。詳しくはお近くのろうきん窓口にお問い合わせください。

対象取引 [定期預金] 5万円以上の新規お預入れまたは増額書替え
[積立型預金] 財形預金・エース預金のうち年間積立額5万円以上の新規ご契約または年間積立額3万円以上の増額のご契約
いずれか

〈問い合わせは〉 ☎ 0120-1919-62 <http://www.tohoku-rokin.or.jp>

あなたの気持ちを届けます。

大きな支援の輪で東北に元気を

ウィンター
キャンペーン
2011
11.12.30